

第3回小松空港中期ビジョン策定検討委員会 議事概要

日時：令和4年11月22日（火） 13:00～14:15

場所：石川県行政庁舎1110会議室

事務局からの資料説明後、以下の意見交換がなされた。

1. 北陸新幹線敦賀延伸への対応について

- 北陸新幹線敦賀開業後、福井県から東海道回りで首都圏に向かう場合、米原駅での東海道新幹線への乗り換えに加えて、敦賀駅での乗り換えも新たに必要となる。乗り換え不要の小松ー羽田便の利便性をPRしていくべき。
- 福井県企業の更なる利用を促進するためには、経営者に対して、航空便の方が安くなることがあることなど、利便性を訴えるとよいのではないか。同様に、運賃重視の傾向がある若者に対しても、SNS等でアピールするとよいのではないか。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるリモート会議の普及等で、首都圏への出張需要が抑制されるなど、小松発のビジネス利用の需要構造の変化も踏まえ、対策を検討いただきたい。
- 新たな旅客創造には、航空便と新幹線の2つの交通手段を組み合わせた「エア&レール」の旅行商品造成なども必要ではないか。
- 1つの自治体内に新幹線の駅と空港が両方あるという魅力を最大限に活用したい。小松駅と小松空港の接続をスムーズにして、駅・空港間を移動する際の不便さや複雑さをいかに解消するかが重要。例えば、駅と空港を結ぶ連絡バスは、航空便の発着時間に合わせたダイヤとなっているが、新幹線の発着時間に合わせたダイヤも検討し、新幹線利用者の利便性向上も図れるとよいのではないか。
- 北陸新幹線敦賀延伸により、北陸への注目度が高まる。この機を捉え、例えば、「首都圏から加賀温泉・小松空港まで1時間！」といったキャッチコピーで速達性をアピールするなど、首都圏等からの移動時間や料金面での航空便の優位性を、地域の観光資源と併せて効果的にPRできるとよいのではないか。
- 北陸3県には、多くの観光資源があることから、北陸3県で連携して利用促進に取り組むとよいのではないか。
- 交通体系が便利になっても、観光コンテンツに魅力がなければ、観光誘客はできないことから、北陸新幹線敦賀延伸に向け、石川県内の様々な観光資源を磨き上げ、新幹線の開業効果を最大限に取り込む必要がある。
- 小松空港の利用促進策については、小松空港発のアウト対策だけでなく、国内外から小松空港を通じて石川県へ誘客するイン対策も重要であり、観光部局と連携の上、観光分野の施策も含めて検討した方がよい。

2. 国内新規路線の開拓について

- 新幹線の通っていない地域などへの新規路線の開拓に取り組んではどうか。
- 北陸新幹線敦賀延伸により、北陸から関西方面へは敦賀駅で乗り換えが生じることになる。2025年の大阪・関西万博に向けて、小松空港と、関西国際空港や神戸空港など、関西方面を結ぶ新規路線の開拓を検討してみてもどうか。

3. 第2滑走路について

- 県が実施している基礎調査については、空港周辺地域の開発構想にも留意しながら、進めていただきたい。
- 第2滑走路整備の経済効果についても調査してはどうか。
- 第2滑走路を整備する場合の空港隣接地における土地区画整理事業への影響について、早期に示していただきたい。
- のと里山空港の建設までの経緯を振り返ると、地元において、様々な検討を行うとともに、国への要望活動を粘り強く展開する必要があるように思う。

以 上